

2017 ヴィンテージ

2017 年 10 月 1 日の記述による：

「ヴァッカスよ、あなたを歌おう。おいでください、圧搾機の神よ。野が輝いている。収穫されたブドウの果汁で桶が満たされ、泡立っている。おいでください、靴を脱ぎ捨てて。私と共にブドウの中に裸足を浸してください。」 ヴィルギリウス 農耕詩Ⅱ

この 10 月の最初の日曜日、空気は涼しくなり、まさに夏から穏やかな秋に変わろうとしている。ブドウ畑は収穫人にその実を与え、落ち着いており、落葉までにはまだ時間がかかる。平和に包まれ、静かで軽やかな空気、景色の美しさ、ブドウ畑を照らす温かい光は出産が終わり、皆が祝福しているような印象を与える。刻々と変わりゆく、黄金色から明るい茶色、そして赤色へ。またその逆も。この年のブドウが早く熟した分、冬になるまでの明るく長い季節を楽しめ、秋というブルゴーニュの偉大な画家が景色を美しい色合いに染めている。

その一方、醸造所ではブドウがワインへと喧騒の中で変化している。「収穫されたブドウの果汁はタンクの中で泡立っている」。ヴィルギリウスのようにピジャージュのために、34-35℃で発酵している中に「素足で新しいワインに足を踏み入れる」。まるで母乳の温かさの喜びを再び感じるかのように。

今から記憶をたどって過去に戻り、2017 年ヴィンテージのワインを決定づける、いくつかの要因を思い出す時が来た。テロワールの謎めいた錬金術のような数え切れない現象の傍らで、我々人間の乏しい分析から導き出せる要素はそれほど多くはないのだが、どのように、そしてなぜブドウ樹は今年、量もありながら、黒く果汁豊かにふくらんだ糖度豊かな美しいブドウを実らせることができたのかを理解しようとすることは重要だ。

2017 年は実に量的にも質的にも素晴らしい収穫となった。長年経験しなかったことだ。

久々に寒い冬であった。1 月は数週間続けて、雪は降らないのにブドウ樹は霧氷の白い衣装を身にまとっていた。

発芽は 3 月末に始まり、とても早い発芽となった。4 月はとても乾燥し、どちらかと言えば暑かった。ブドウ樹は 4 月 6 日から葉をつけ始めた為、昨年のように、4 月末に朝の霜が襲い掛かりそうになった時に大きな危機を感じた。2016 年に受けた甚大な被害を再び受けないように、ブルゴーニュの全ての村のヴィニキュロン達は、4 月 27 から 29 日の毎日、明け方に集まり、ブドウ畑の周辺で藁を燃やし、ブドウ樹を守るために煙を焚いて霜の被害から守った。みんなの団結が功を奏し、霜の被害を受けずにすんだ。

このヴィンテージの 2 つ目の重要な出来事は開花である。毎年、収量を決定づける大きな要因は開花である。今年は 5 月末と、とても早く、わずか 3 日間と非常に速やかで、暑い天候のもと進んだ。その結果、開花を邪魔する雨が降ったものの、全ての花が完全に開花し、結実不良は起こらなかった。このようにして 5 月末の時点で、雹などの突然の攻撃が無ければ、9 月の初めにブドウの豊作が予想できた。

6 月は極めて暑く、21 日には 39℃まで達した。その結果、いくつかのブドウの実のは熟したが、この暑さはブドウ

の果皮を厚くすることを促した。これはとても重要で、ブドウに肯定的に働き、6月と7月に嵐が連続して襲ったが、ベト病や灰色カビ病のようないつもの敵に対抗できた。雨のおかげで大きくなったブドウの実を持ちこたえ、厚く丈夫なまま残った。

そして7月末から8月頭のブドウの実が色づき始めるヴェレゾンの頃、つまりブドウ樹が蔓の成長を止め、ブドウの実が熟すことだけに専念する時には、多くは大きい房をつけ、また一部は隙間なく詰まった房となっていたが健全であった。

ブドウの成長期の間中、ニコラ ジャコブとドメヌの醸造所やブドウ畑の従業員はブドウ樹の極めて速い成長の対応に追われた。24時間で10cmも伸びていた蔓もあった。自然は記録的な早さで摘芽の作業や蔓の固定の作業を我々に強いたが、速く成長したために蔓は弱く、特に慎重に作業しなくてはならなかった。

8月は乾燥し暑かった。ブドウの成熟は加速し、特に糖度が増した。8月の後半に入り、8月末前に収穫を予定できるほどの糖度に達していたが、待つことは大切だった。なぜなら香りやワインの味と個性のもととなるフェノールはまだ完全に熟しておらず、乾燥しすぎた土壌のせいで成熟が進まなかったからだ。

幸運にも8月の終わりに、救いの雨のおかげで成熟が進み、このヴィンテージの最終的な品質に必要な不可欠である完全な熟度に達した。

伝統的にコート ド ボーヌがコート ド ニュイに先行するが、今年もそれが立証され、9月4日に暑い石灰土壌のコルトンの畑で素晴らしく健全で糖度に満ちたブドウを収穫した。

ヴォーヌ・ロマネでは9月6日まで待ち、ラ ターシュの畑から始め、6日と7日で収穫した。ロマネ・コンティは8日の朝に収穫し、リシュブールは午後に始めた。9日は朝に雨が降り、この日は収穫を止めて、10日にリシュブールを再開した。そしてロマネ・サン・ヴィヴァンは10日と11日、グラン エシェゾーは12日、エシェゾーは13日に収穫した。14日の木曜日には再び朝に新たな雨が降ったため収穫を中止し、エシェゾーの最後の区画を15日に終えた。

昨年90%が霜でやられたモンラッシェの畑は今年はたくましかった。霜の後には普通のことだが、2016年にブドウの実を作らなかった分、2017年にブドウ樹は立ち直り、高い生産力を回復し、我々に幸福をもたらした。9月7日に収穫し、誇張せずとも収量は程良く、ブドウは完全に健全で熟していた。発酵も極めて順調に進み、我々はこのヴィンテージのモンラッシェはよいヴィンテージになると予測している。

9月16日の土曜はポーレ（収穫が終了したことを祝う宴会）を開いた。このポーレは特別な会となった。なぜなら父のアンドレ ノブレの後を継ぎ、1986年から醸造長として働いたベルナール ノブレの最後の収穫だったからだ。ベルナルの残した素晴らしい業績にふさわしく、彼がドメヌで働き始めた年である1978年ヴィンテージ、彼が初めて醸造に関わった1985年ヴィンテージ（しかしそれは間違えて、実際は1986年だったのだが）、そしてこの日のクライマックスは彼の誕生年である、1957年ヴィンテージをふるまった。

今年もまたニコラ ジャコブによって見事に導かれた我々の素晴らしい収穫人達は簡単であった収穫の記憶をとどめるだろう。収穫人は陽に灼けて乾燥し、萎れた実を取り除くだけでよく、ブドウの房は選果する必要がほとんどなかった。収穫の前や収穫中に降った雨の後、ブドウの成長期の最後に起こるように、灰色カビ病の発生や

爆発的な蔓延を危惧したが、その不安は現実とはならず、収穫の終わりまでとても健全なまま収穫できた。

ブドウ畑に感謝するヴィニュロン達にとって寛大な年となった。

自然の寛大さのままに、過剰な収量も可能な 2017 年のような年において、収量の制限をすることは重要だ。さらに、ピノ ノワールと同様にシャルドネも繊細な株、つまり自然に収量が多くなならない株を選別していることは大事で、またすべてのブドウ畑で平均樹齢約 50 年という高い樹齢も重大な要素である。

量が多く健全な収穫はブドウの品質を尊重するような醸造を行わなくてはならない。醸造直前の最後の選果の後に行われる除梗は最小限にし、ロマネ・コンティを含むいくつかの畑では全く除梗せず、全房発酵を行った。

発酵が始まる前の数日間にわたるマセラシオンの間、暗い赤色が見られた。それから発酵が始まり、最初のルモンタージュからすぐに、バラ色の活発な泡が現れた。これは一般にリッチで芳醇なヴィンテージの時に現れる兆候だ。この文章を書いている今は特別な戦闘態勢で、なぜならベルナール ノブレと彼の後任のアレクサンドル ベルニエとそのチームは今年 24 ものタンクを醸造しなくてはならず、それは去年のほぼ倍の量なのだ。

この 2017 年のワインの特徴に関してより多くの情報がわかるのは、発酵が終わり、樽での熟成を待たなくては行けないが、結論としては春の良い前兆は保たれた。例外的に収量の多い年だが、畑担当チームの仕事による自然な収量の制限によって過剰ではなく、まれに見るほど健全で、とてもよい品質が予想される収穫となった。